授業科目名： 救急処置法	教員の免許状取得のための 必修科目（選択科目）	単位数： ２単位	担当教員名： 山田　美絵子 担当形態：単独
実務内容 （実務家教員の場合）	AMERICAN　HEART　ASSOCIATION　IEMA　BLS　FACULTY 国際救命救急協会エグザミナーADVANCED INSTRUCTOR		
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 学校保健 （小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）		

「学位授与の方針」との関係

・問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。

・多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。

・共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。

授業のテーマ及び到達目標

学校管理下で起きる事故の事例から、学習指導要領に掲載されている内容の理解、指導ができるようになるために救急処置法の考え方と知識を学び、実際の処置のトレーニングをし、身に付ける。

授業の概要

救急法の目的、要素、範囲を理解し、医療従事者との連携までを把握する。

正常な状態と病気や障害などの状態との違いを理解し、非医療従事者のできる範囲の救急処置と運搬などの実技ができるようになる。

AED を用いた BLS を人の命を預かる職業の教員として勇気を持ってできる、指導できるような技術を身に付けられるように展開する。

授業計画

第１回：救急法の目的、要素、範囲、実施事項

第２回：安静について、飲み物について、創傷、血液、出血を出にくくする方法

第３回：直接圧迫止血法、間接圧迫止血法、止血帯（実技）

第４回：包帯法（実技）

第５回：頭部外傷、頚部損傷、胸部損傷、腹部損傷

第６回：四肢損傷、骨折、脱臼、脊髄損傷、脊椎損傷

第７回：熱傷、凍傷、溺水、けいれん

第８回：咬傷、虫刺され、アナフィラキシーショック、突然の胸痛、

第９回：突然の腹痛、熱中症、脳卒中、食中毒

第１０回：チョーキング、骨折処置、運搬法（実技）

第１１回：BLS 講義（日本の救急事情、なぜ BLS が必要か、心臓と肺の機能について）

第１２回：BLS 講義（心肺蘇生法について、PAD の必要性、AED について）

第１３回：BLS 実技（意識確認～頚動脈触診・呼吸の確認、人工呼吸、胸骨圧迫）

第１４回：BLS 実技（コンビネーション）、実技テスト

第１５回：BLS 総合シミュレーション（AED を用い、各種パターン応用など） 定期試験
スクーリングでの学修内容 （主に、学校で起きる事故や傷病の処置内容を含む。）
教科書 国際救命救急協会　IEMA　CPR　＆　AED　TEXT　NOTEBOOK（2020 年度版）
参考文献 ・国際救命救急協会　EC セミナーテキスト、IEMA　CPR　＆　AED マニュアル、 ・月刊　JAPAN　FITNESS 必要がある時に随時紹介する。
学生に対する評価 レポート評価（２５％）、スクーリング評価（２５％）、科目修得試験（５０％）の割合で総合して評価する。